

地域医療 連携だより

Vol.3
2020 autumn



特集

新型コロナウイルス感染予防対策を語る
公立藤岡総合病院における院内感染予防について

TAKE FREE

多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院 広報誌 地域医療連携だより 発行：公立藤岡総合病院 経営管理部 企画財政課

News

研修医マッチングにおいて、今年度もフルマッチとなりました

研修医マッチングとは

研修医マッチング(組み合わせ決定)とは、医師免許を得て臨床研修を受けようとする者(研修希望者)と、臨床研修を行う病院(研修病院)の研修プログラムとを研修希望者及び研修病院の希望を踏まえて、一定の規則(アルゴリズム)に従って、コンピューターにより組み合わせを決定するシステム。

5年連続フルマッチ(募集定員充足)

当院においては、5年連続でフルマッチとなりました。
来年度から新たに7人の研修医が赴任いたします。ご指導の程よろしくお願いたします。



研修医が作成した病院名の入ったスクラブ

New Face

10月1日から当院に医師2名が着任しました。

診療予定表が変更となりましたので、
当院ホームページをご確認ください。



リハビリテーション科 整形外科専門医 有井 大典 Hironori Arii

リハビリテーション科に新しく赴任しました有井大典と申します。
元々は整形外科医として働いていましたが、6年前からリハビリテーション科の医師として働いています。
藤岡総合病院では患者さんの診療に従事することも勿論ですが、安全で有効なリハビリテーションが実施できているか、診療の結果を客観的に評価し、問題点を療法士とともに改善し、より良いリハビリテーションを提供できるようにしていきたいと考えています。
よろしくお願申し上げます。



整形外科 市岡 健 Ken Ichioka

整形外科に新しく赴任しました市岡健と申します。
9月までは群馬大学医学部附属病院整形外科のほうで学ばせて頂いておりました。
知識・経験ともに浅く、至らぬ点も多々あるかと思いますが精一杯頑張っていきますのでよろしくお願申し上げます。

令和2年9月30日付け転出医師
「大変お世話になりました」

矢島 賢司 (リハビリテーション科)
高橋 佑 (整形外科)



病院の理念 地域住民から信頼される医療

基本方針

- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、患者本位の医療を提供します。
- 2 地域中核病院として、救急医療、高度専門医療の充実に努めます。
- 3 地域の医療・介護・保健機関と密接な連携を行います。
- 4 次世代の医療従事者の教育・研修に貢献します。



特集

新型コロナウイルス感染症予防対策を語る

臨床研究統括部長・呼吸器内科部長（令和2年4月着任） 茂木 充



臨床研究統括部長

茂木 充 Mituru Motegi

専門／呼吸器疾患全般
資格／日本内科学会認定医
総合内科専門医・指導医
日本呼吸器学会専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医
身体障害者福祉法指定医

呼吸器内科の紹介

呼吸器内科では肺癌をはじめとする腫瘍性疾患（悪性中皮腫、縦隔腫瘍を含む）、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、多種多様な呼吸器感染症（各種肺炎、膿胸、肺結核など）、特発性肺線維症をはじめとする間質性肺疾患（特発性間質性肺炎、膠原病肺、薬剤性肺炎など）、気胸、各種胸膜炎、睡眠時無呼吸症候群、肺血栓塞栓症などを主な対象疾患としています。

肺癌患者の治療は十分なインフォームド・コンセントを得た上で、手術療法、化学療法、放射線療法のうち、その患者に適切な治療法を選択し施行しています。呼吸器内科としては化学療法、放射線療法、ならびに化学療法・放射線併用療法などを行っています。近年では、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬などの画期的な新薬の登場により、進行肺癌の治療成績は飛躍的に向上しています。最新の肺癌診療ガイドラインを参考に適切で効果的な治療を目指しています。また、緩和医療にも力を注いでいます。

高齢化が進む中、慢性閉塞性肺疾患や間質性肺疾患の慢性呼吸不全の患者が増加しています。

⑤帰宅時の手洗いを習慣付ける。家族を守るため。

④マスクをしていないときの注意

特に食事中は最も無防備になり油断する。マスクをしていないときは会話は控える。特に、食事中の大声での飲談は慎む。マスクをしてから静かに会話をするように心がける。

新型コロナウイルス日常生活上の注意点

医療従事者も一般の人たちも、日常生活で感染しない・感染させない行動をとることが大切です。日本人の99%以上の方々はすでに習慣となった行動様式ですが、患者の生活指導などで参考になればと思います。記載しました。

①石鹸でこまめに手洗いをしましょう。

家庭でも家族で手洗いを徹底する習慣を身につけましょう。外出時、帰宅時、食事の前後、歯磨き・洗顔の前後、トイレの前後の手洗いを徹底し、家族みんなで感染予防に努めてください。石鹸による丁寧な手洗いでウイルスはほとんど除去されます。特にマスクをしていないときは、手指で目や鼻や口を触りやすいので、顔を触る前に手を洗う習慣を身につけましょう。

②3密を避けましょう。

密閉された部屋や電車・バスでは、鼻までしっかりと覆ったマスクの着用が有効です。接触感染の予防のため、一般の手袋の着用も有効ですが、手袋を外した後の手洗いを忘れずに行ってください。

③感染対策の不十分な飲食店・居酒屋での飲食を控えましょう。

マスクをせずに大声で会話しながら飲食している換気のない部屋が最も危険です。外食や会食中はマスクをしていないので、最も無

す。慢性呼吸不全の患者には、在宅酸素療法が広く行われており、また、II型呼吸不全症例には、マスク型の非侵襲的陽圧換気療法も積極的に導入されています。

各種疾患の急性呼吸不全で入院の際には、以前は人工呼吸器管理を行うこともしばしばありましたが、最近では、患者さんへの負担の少ない、ネーザルハイフロー治療が広く用いられるようになり、気管内挿管・人工呼吸器管理を行う症例は激減してきております。

ネーザルハイフロー治療は、呼吸不全の終末期治療としても優れており、 EO_2 60%以上を要する重症呼吸不全でも座位で食事が可能となり、口腔ケアも容易になってきました。呼吸不全の急性期も終末期も、より快適に過ごせるようになってきています。

新型コロナウイルス感染予防対策

新型コロナウイルス診療の際の注意点

新型コロナウイルスの感染は飛沫・接触感染が主体です。密室でのエアロゾルを発生させる医療

防備になりますので、持病をお持ちの方やそ
ご家族は外食や会食を控えましょう。

地域医療機関へのメッセージ

肺炎様陰影を呈する疾患は多種多様であり
ますが、新型コロナウイルス肺炎の流行・蔓延に伴い、さらに複雑さを増してきております。最新の知見を取り入れながら、呼吸器疾患全般に対応していきますので、今後ともよろしく願っています。



行為においては、飛沫核感染対策（N95マスク）が推奨されますが、それ以外では、サージカルマスクと石鹸での手洗いで感染予防は可能です。感染者が咳やくしゃみをするエアロゾルが発生しますが、感染者にサージカルマスクをしっかり装着させていけば、エアロゾルの飛散は防止できます。以下に、日常診療においての注意点を示したいと思いますので参考してください。ただし、歯科領域と耳鼻咽喉科領域のように、患者のマスクを外して口腔内で処置をするのに関しては、それぞれの学会の指針に従ってください。

患者も職員も日常生活の中で不顕性感染し、病院・診療所内に持ち込む恐れがあります。これは、マスクと手洗いを徹底すれば完全に防ぐことが可能です。特に職員においては、病院内で密に長時間になりやすい空間を洗い出し、院内感染予防に努めなければなりません（職員食堂、休憩室、仮眠室、職員ロッカーなど）

職員への基本的徹底事項

①基本原則…手洗いをせずに汚染された手指で顔（眼、鼻、口）をさわらない。

②石鹸による手洗いの徹底

③出勤後、マスクを手にとる前に必ず手洗いを
する。手洗いをせずにマスク箱に手を入れてはいけません。

④病棟・外来・勤務場所に到着したら、まず、石鹸でゆつくり十分に手洗いを
する。

⑤診察の前後やマウス・キーボードを触る前には、必ず、手洗いを
行う。

⑥食事の前後の手洗いを徹底する。レストランや休憩室のドアノブやテーブル面には不特定多数の人が接触し、汚染されていると考えた行動が必要である。ドアノブなどへの接触の前後に手指消毒か手洗いを
する。

当院の 院内感染予防について

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、当院における院内感染予防について、二人の感染管理認定看護師に話しを伺いました。

感染管理認定看護師
染谷由香里 Yukari Someya
感染管理認定看護師
千木良悦子 Etuko Chigira

感染管理認定看護師の紹介

千木良 当院では、感染管理認定看護師が2名常勤しています。1名が専従で、1名が病棟勤務との兼任で病院組織の感染対策チームの一員として、院内の感染防止活動を行っております。主な内容としては、院内の全部署における横断的な相談、教育、指導の実施をしております。また、現場での実践状況を確認する中で問題があった場合は、改善策を提案し、院内統一できるようにマニュアルの整備をしています。

新型コロナウイルス感染症に関しては、関係機関との連携、職員の感染防止対策の教育、指導など中心に活動しています。目に見えない相手に対して、患者さんや家族の方、職員など病院に関わる全ての人々を守るために精進しております。



関係部署への手指衛生、個人防護具などを含めた標準予防策の徹底に向けた指導、教育を継続しています。職員の健康管理として、毎日の検温と症状の有無の確認や職員の抗体検査を実施しています。

検査体制においては、抗原、抗体、遺伝子検査など幅広い検査を実施し、高い精度を維持できるよう努めております。また、術前の患者さんや妊婦さんの遺伝子検査を実施し、安心して医療が受けられるよう体制を整えております。

適時、院内 COVID-19 会議を開催し、日々情報が更新される中で、院内での情報共有及び課題への対策を協議しています。いまだ終息の兆しは見えませんが、新型コロナウイルス感染症の流行期においても質の高い医療が提供できるよう病院一丸となって、感染防止対策に取り組んでおります。



患者さんに寄り添って

染谷 第二種感染症指定病院としての機能を持つ当院においても、早くから発熱外来を設置し、新型コロナウイルスに対応して参りました。入院中の患者さんにおいては、面会が制限されているため、入院中に話ができるのは、私達医療者のみです。

入院によって自由が奪われ、気分が落ち込んでしまった方、退院が決まっても感染が心配で退院を心から喜ぶことができない方など様々な状況を経験することになりました。

地域の医療機関へのメッセージ

染谷 大流行となった新型コロナウイルス。この新しいウイルスを制圧するには地域の医療機関の協力が不可欠と考えています。それぞれの施設の特性を活かして役割を遂行することで、藤岡地域における対策の拡充を図る事ができます。現在までに12名という感染者に抑えられているのは、ひとえに近隣医療機関のご協力によるものと感じています。これからインフルエンザとの同時流行も懸念されるなか、より一層感染対策を強化すべく邁進してまいります。ご要望があれば各施設での研修会等をお受けすることもできますのでご相談ください。私達、感染管理認定看護師は、笑顔で退院される患者さんを送ること、スタッフの感染を防ぐこと、そして地域での感染拡大が起らないことを目標に今後も活動して行きたいと思っています。



院内感染防止対策について

千木良 新型コロナウイルス感染症の流行初期より、診察及び検査フローや手順書の作成、

職員健康観察用紙 (月)

部署: _____ 氏名: _____

・勤務開始前に体温測定と健康チェックを行って所長氏に提出して下さい。
・所長氏は1か月終了後、安全管理センターに提出して下さい。

日	勤務	体温	該当する症状がある場合、該当項目に○	陽性または疑い、およびその経過
1	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
2	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
3	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
4	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
5	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
6	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
7	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
8	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
9	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
10	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
11	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無
12	日・夜・連	鼻汁・咽痛・喉頭痛・咳・倦怠感・下痢・その他()	()	有・無

職員の健康管理に使用している「職員健康観察用紙」

全身麻酔を伴う手術患者さんに術前 PCR を実施しています

当院では新型コロナウイルス感染予防対策として、全身麻酔を伴う手術患者さんに術前PCRを実施しています。感染外来前テントで、平日午後2時から3時に5人程度実施しています。



全自動遺伝子解析装置 スマートジーン導入

当院では、従前からあるLAMP法でCOVID-19も検査を実施していましたが、この検査法だと緊急的な検査に対応できないため、スマートジーンを導入し、今後増加の予想される緊急検査に対応いたします。